

黒田東彦アジア開発銀行総裁演説
アジア開発銀行第38回年次総会（仮訳）
（2005年5月4日、トルコ、イスタンブール）

「モーメンタムの強化：アジア・太平洋地域開発の新時代」

I. 序言

今般のトルコにおけるアジア開発銀行第38回年次総会への皆様のご出席を、総会議長であるイブラヒム・チャナクチ・トルコ財務次官と共に、心から歓迎いたします。

トルコ経済担当大臣のアリ・ババジャン閣下にもご出席いただいたことは大変名誉なことでもあります。

トルコ政府、国民の皆様の、かつて首都の中の首都と知られ、また2つの大陸をつなぐ掛け橋でもあるイスタンブールへのご招待に感謝いたします。さらに、今回の総会にご出席いただいたわれわれの開発パートナー、関係金融機関、市民社会、NGO、それに報道機関の代表者の皆様の参加を心から歓迎いたします。

また、この機会に、最近の津波災害で被災者を出された国々の皆様にも、改めてお悔やみを申し上げたいと思います。同時に、被災地国の総務の方々には、ADBが復興に向けての努力を続けていくことを改めて確約いたします。また、ADBの復興支援努力をサポートしていただいている加盟国の皆様にお礼を申し上げます。

II. アジア・太平洋地域：多様な側面を持つ地域

スリランカのコロンボで、小さな女の子が飲料水を得ることができる.....ラオスのビエンチャンでは、ある母親が自分のミシンを使って縫製し、その商品が海外の市場で売られている....インドネシアのバンダアチェでは、津波災害で自宅を失った家族が、それに代わる新しい家を手にすることができる....こうしたことが開発のすべてです。生活を改善すること、機会を創出すること、そして、輝ける未来への新しい希望をいだけるようになるため共に協力していくことなのです。

この一世代で、広い意味での開発がアジアの相貌を変えました。最近15年間だけをとっても2億人以上の人々が貧困から解放されました。成果は驚くべきものですが、一方で、未だ大きな課題が残っています。アジア・太平洋地域では、世界で極めて貧し

い人々の約3分の2に当たるほぼ7億人の人々が、未だに1日1ドル未満の生活を送っています。

またアジアの一部の地域では5人に4人の女性が読み書きの出来ない状況です。とくに農村地域では数百万人の人達が、未だ、きれいな水や下水設備へのアクセスがありません。幾つかの国の幼児の死亡率は、先進国に比べ20倍に達しています。アジア・太平洋地域の最も貧しい人々の10人のうち7人が、経済成長が最も早く進んでいる国々に住んでいます。このようにダイナミックな成長を続ける地域での深刻な貧困は受け入れ難いものです。

「ミレニアム開発目標 (MDGs)」は、世界レベルで貧困を半減させると同時に、人々の生活水準を引き上げるという目標を設けました。アジア・太平洋地域で、この開発目標は達成可能でしょうか？それは我々すべて託されています。一つだけ、明らかなことがあります。それは、アジアで「ミレニアム開発目標」が達成できなければ、他のどこでも達成出来ない、ということです。しかし、もし、アジアでMDGが達成出来れば、それによってもたされる利益は、アジアだけでなく世界にとっても多大なものになります。

III. 開発の新時代

本日、第38回年次総会にあたり、われわれはアジア・太平洋地域を貧困から解放するというビジョンを共有することを改めて確認したい、と思います。そのビジョンは、相互に、かつ世界と深く結びついた繁栄するアジア・太平洋地域経済を実現するということです。

このビジョンを実現するためには、経済が持続的、かつ急速に成長していくことが基本です。アジアの途上国では家計所得の1%の増加は、貧困率を2%引き下げることに繋がります。しかし、経済成長だけでは十分といえません。われわれのビジョンを完全に実現させるためには、われわれ自身が新しい開発の時代に移行していくべきでしょう。その開発の新時代とは、より相互依存を強め、より統合され、かつより「インクルーシブ」なものであるということです。だれもが後に取り残されないような開発の新時代です。

現在は、多くの機会に恵まれています。アジアの開発途上国は、現在、根本的かつ大きな変貌を遂げつつあります。もはや、世界経済の周辺にいるのではなく、むしろ、グローバルな経済発展の中心にいます。購買力平価をベースにすれば、アジア途上国は、

いまや世界のGDP（国内総生産）のほぼ30%を占めているのです。

1国が恩恵を受ければその他全部の国にも恩恵がおよぶということを認識し、アジアの開発途上国は地域経済協力を進めています。自由貿易協定が拡大しています。域内貿易もアジア全体の貿易量の半分ほどになっています。

アジアの開発途上国の人々は、開発をただ切望しているのではなくて、開発の実現を期待しています。途上国政府は、重要な政策改革を実行し、規制の枠組みを改善し、国内のガバナンスや諸制度を強化しています。それらの国々は、機会をうまくとらえ、かつてないほどの開発成果を実現しています。そして、国際社会は、成果を挙げている途上国に開発投資をすることにコミットしています。

より高いレベルの開発の有効性を実現するための可能性は、アジアにあります。まさに、アジアは、開発が機能する地域です。そしてアジアは、「ミレニアム開発目標」を実現する世界中の期待を担っています。

IV. 開発の新時代におけるADBの役割

この40年以上、ADBは1130億ドルもの資金をアジア・太平洋地域に投じてきました。そこには昨年1年間の総額55億ドルの融資と技術支援が含まれています。ADBは、アジア・太平洋地域および、その中の開発途上国での開発に多大な貢献をしてきました。われわれは、アジアの成長と繁栄に貢献する仕事に日々かかわっていることを誇りにすべきです。

しかし、この地域でダイナミックな変化がおきていると言うことは、ADBが変わらなければならないということを意味します。MDGの達成をめざしてアジアの開発途上国を支援するためには、ADBが開発により適切に対応し（**RELEVANT**）、より対応を敏速にし（**RESPONSIVE**）、より成果（**RESULTS**）に焦点を当てた活動をするのが開発の新時代に求められていることです。

ご存知のように、ADBの「改革アジェンダ」は、組織を変え、新しいものにしていくための包括的かつ挑戦的な枠組みです。私がADBに来てから4ヶ月が経過しましたが、「改革アジェンダ」の実現に向け、成果が挙がっています。われわれは、この成果に基づき、さらに開発の有効性を強化して参ります。ここで、ADBに求められている**RELEVANCE**（適切な対応）、**RESPONSIVENESS**（敏速な対応）そして**RESULTS**（成果重視の対応）について触れたいと思います。

適切な対応 (RELEVANCE)

開発の新時代に適切に対応していくために、ADBは、銀行内部かつ開発途上加盟国のいくつかの基本的な課題に取り組まなければなりません。たとえば、われわれは、貸付が停滞していることを懸念しています。また、いくつかの国々に対する純貸し出し資本移転がマイナスになっており、われわれのオペレーションが時にあまりにも広範なものになっていることを懸念し、組織内に蓄積された重要な専門技術と知識を最大限活用していないことを懸念しています。

これらの課題に対応するために、われわれは、オペレーションの面でより焦点を絞り、より選択的に活動をしていくよう努力する必要があります。それが、われわれが顧客のみなさんへ質の高い商品とサービスを継続的に提供していくただ1つの方法です。われわれはまた、資金支援について、とくに所得以外のMDGの達成のための支援にとって規模拡大が必要です。地域にまたがる基礎的ニーズに応えるためには、水道、衛生、教育、保健などのセクターに対する投資が、ますます必要になっています。この地域に住む女性の生活の向上、エイズの感染拡大への対応も特に重要です。われわれは、他の機関と緊密に協力し、紛争後の国々や脆弱な国家（フラジャイル・ステイト）をさらに効率的に支援をしていく必要があります。

われわれは、年間2500億ドル以上と推測されるアジア途上国のインフラ面での資金ギャップを埋めるためにより大きな役割を果たさねばなりません。そのためには、われわれは、開発途上加盟国や民間セクターと協力して、貧しい人々のアクセス改善につながり、しかも経済成長に役立つ優先的なインフラ・プロジェクトを支援して参ります。また、さらなる民間セクターのインフラ、その他の分野への投資を引き出すための斬新な手法にも取り組んでいます。

われわれは、次期の「中期戦略」で、今後5年間に渡りADBが対応していく優先的課題を明確にいたします。これらの優先課題は、さらなる地域協力と地域統合を促進していくというADBの地域開発機関としての役割を果たしていく中で、取り組んで参ります。そのためには、大メコン河流域（GMS）、中央アジア、南アジア等で促進していきます既存の地域協力イニシアティブをさらに強化していきます。また、貿易、金融面での協力を促進するため、東南アジア諸国連合（ASEAN）+3（日本、中国、韓国）のような地域組織体との関係を深めてまいります。

最近、ADBに設立された「地域経済統合室」は、これら地域協力促進努力の中心的役割を果たし、地域協力・統合をさらに促進していくというADBの役割を強化していく

ことになります。所得格差を小さくし、また成長の果実が国を越えて、あるいは国内でさらに公平に配分されるために、地域協力、地域統合の促進は、インクルーシブ（全ての人、国を取り込む）に行われていくことが重要であります。

敏速な対応（RESPONSIVENESS）

ADBのスタッフが昼夜を問わず津波災害に対応したことは、ADBの機敏な対応能力を示しています。6億ドルのアジア津波基金は、まさに津波で被害にあった開発途上加盟国が必要としていた支援資金を手当てするためのチーム・ワークの結果です。

しかし開発の新時代は、さらなる敏速性を求めています。敏速に対応していくためには、われわれは、すべてのオペレーションでタイムリーに動かねばなりません。プロジェクトの準備期間を短縮し、プロジェクトの実施を改善するため、本年、ADBは、自らのビジネス・プロセスや内部手続きについて、数多くの変更をしていきます。われわれは、既に、いくつかの調達やコンサルティング・サービスに関する手続きを簡略化しましたし、また理事会には追加の変更策を提案する予定です。

敏速な対応をするために、われわれは革新的であるべきです。昨年、アジア債券市場の発展のために、ADBは、インドとマレーシアで現地通貨建て債券を新たに発行しました。今年もタイ、フィリピン、それに中国で現地通貨建て債券を発行する計画をしています。また、われわれは、新しい貸し出し形態を模索していきます。これは、現地通貨建てでの資金支援、サブ・ソブリン貸付け（地方公共団体および政府系機関への貸付）、リファイナンス、およびマルチ・トランシェ等の資金支援などです。これらのイニシアチブを支援し、ADBのプロファイルを強化するため、信用リスク管理体制強化のための独立した部門を立ち上げる計画をしています。

敏速に取り組むために、われわれは、さらに柔軟な対応が必要です。ADB融資比率の引き上げや融資対象の拡大などの措置をとる計画です。そうすることにより、ADBの資金支援形態が他の多国間開発金融機関と調和したものになります。

成果重視の対応（RESULTS）

最後に、ADBが加盟国の皆様に対しておこなって行く業務が有効的なものであるかどうかは、目に見える成果を挙げることです。

ADBの関係者全員が、結果を出していくことに、説明責任があります。理事会も同

じです。またわれわれマネージメント・チームも結果に対して同じ責任があります。そして、ADBのスタッフも同じです。

「開発成果達成のためのマネージメント（Managing for Development Results）をADB全体で実行していく過程で、われわれの仕事の焦点はインプットから結果、さらにはインパクトに移ってきています。プロジェクトレベルで言えば、プロジェクトの立案・モニタリングの新しい手法は、プロジェクトの進捗状況をモニターする具体的な指標をもうけることに、より早い段階で成果がわかるようになります。また、試験的に成果重視の国別の戦略・計画を準備しましたが、このイニシアティブ採用をADBの全開発途上加盟国に拡大して参ります。

われわれは、アジア開発基金（ADF）IVの融資・グラントの配分に関して、パフォーマンスに基づく新資金配分政策を採用しています。これは、経済のマネージメント、社会的にインクルーシブな開発、ガバナンス、ポートフォリオのパフォーマンスなどをもとに資金配分するものです。ADBの新たな人的資源戦略に基づき、スタッフのパフォーマンス評価計画の導入が開始され、個人のレベルでの成果重視を促進し、またチームや部署、局に対するスタッフの貢献を効果的にしてまいります。

これが実行されていけば、われわれは、より高いレベルでの説明責任、透明性にコミットしていくことになります。われわれの新しい「パブリック・コミュニケーション・ポリシー」により、ADBは、透明性、情報へのアクセスという観点で、多国間開発金融機関の先頭を走っています。これにより、一般の人々がADB関係の情報によりアクセスできるようになり、ADBは、さらにステークホルダーに開かれた存在になり、対話を強化してしていきます。

また、ADBの広報室は局に格上げされ、ADBの代表事務所はこの新しい局の管轄におかれ、ADBの対外広報をさらに強化して参ります。

これらの成果を得るために、われわれは、不正や汚職に対する闘いを続けねばなりません。われわれがアジア途上国とともに説明責任を強化していくためには、ADB内部はもとより、ADBが融資したプロジェクトに関して、不正や汚職に対応していかなければなりません。新たに設立された「監査課」は、こうした取り組みの一例です。

V. 結び

本日、私は、さらに統合された、さらにインクルーシブなアジア・太平洋地域につい

て、お話ししました。これは多くの挑戦に満ちた、しかし同時に豊富な機会を提供することができる開発の新時代なのです。われわれが深くかかわり、同時に、コミットしていく時代です。このような状況下で、ADBが、REGIONAL（地域の）、RELEVANT（適切に対応する）、そして RESPONSIVE（敏速な対応をする）組織として成果を挙げていくための優先事項の概要を述べました。

ADBは、皆様の組織であり、皆様方の継続的な支援やかかわりが必須の組織なのです。私は、この地域が挑戦に対応し、大きな潜在力を発揮していく上で、ADBがどうすればベストの支援ができるか、本年次総会で皆様のご意見をお聞きし、共に協力して開発途上国の支援をしていくことを楽しみにしています。そして、ADBを、アジア・太平洋地域のすべての人々にとって将来の希望、機会、繁栄の構築を支援する開発機関にするための今後の方向付けをする議論に、ぜひ、みなさまにも加わっていただきたいと思えます。

ご清聴ありがとうございました。